大津町

JR WALKING MAP

JRウォーキングマップ

コース(行き)　コース(帰り)　コンビニ

1 第11代横綱不知火光右衛門（しらぬいこうえもん）

１８２５年３月３日（旧暦）生まれ、大津町手形下町村（現在の大津町下町）出身。熊本県出身の横綱はわずか二人しかおらず、その一人が不知火光右衛門です。土俵入りの型として知られる「不知火型」を完成させた人物とも言われています（諸説あり）。身長 176cm、体重 124kgと当時としては堂々たる体格を誇り、取り口はキビキビとして名人級、右を差せば盤石とされました。またその土俵入りは華麗で、「白鶴の翼を張れるがごとし」と形容されたほどです。

ついでに寄りたい観光スポット

2 江藤家住宅（特別公開）

国指定重要文化財の江藤家住宅は、今も人が住む江戸時代の武家屋敷です。秋の特別公開では、当時の暮らしぶりや歴史を感じる豪華な座敷や美しい庭園を楽しめます。
襖絵や屏風絵、火縄銃も見所です。歴史を今に伝える貴重な場所をぜひご覧ください。

ついでに寄りたい観光スポット

3 ワンピースゾロ像とからいもくん像

熊本地震からの復興の象徴として大津町にゾロ像が設置された。大津町は剣道が盛んなことから「戦闘員」のゾロが駆け付け、子ども達と広場で剣の修行を重ね、地震に負けない町づくりを目指している。また、県下最大の作付面積、生産量を誇るからいも（さつまいも）をモチーフにしたゆるキャラ「からいもくん」像も設置されている。

ついでに寄りたい観光スポット

4 世界かんがい施設遺産「上井手（うわいで）」と塘町筋（とうまちすじ）

上井手は約400年前、加藤清正が構想、その子忠広が着手し、細川氏によって完成した。白川から取水(加藤清正秘伝銚子口作り)し、大津町中心部、菊陽町を通り熊本市の坪井川に注いでいる。約24キロメートルあり完成まで40年かかっている。大津・菊陽・合志の大地約460haの田畑を潤し、地下水涵養にも大きく貢献している。

ついでに知りたい大津町のグルメ

からいも

大津町の特産品であるからいもは県内一の生産量を誇る。8月下旬より収穫を始め、収穫を終えた後は専用の貯蔵庫で追熟。この追熟こそが、美味しいからいもを作りあげている秘訣です。

ついでに知りたい大津町のグルメ

銅銭糖（どうせんとう）

江戸時代、上井手を流れる水を動力とした水車で挽いた粉で製造したお菓子「銅銭糖」。浪花屋本店創業の藤次郎が銅銭を重ねて紐を通した姿をヒントに、筒状の落雁に餡を入れたのが始まり。１７０年以上経った令和の時代でも大津町の郷土菓子として愛されている。